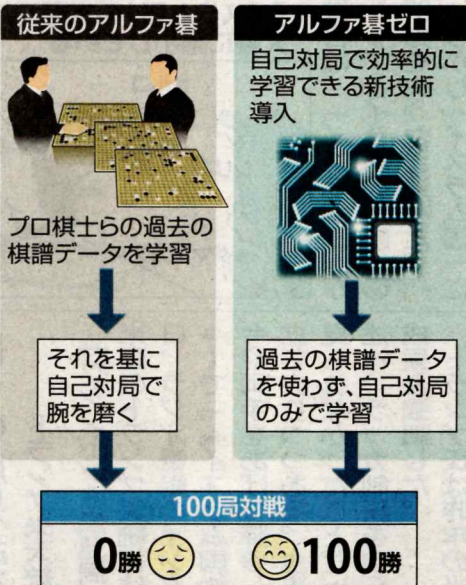


米グーグル傘下の英グーグル・ディープマインド社は、囲碁の世界トップ棋士を次々と破った人工知能（AI）のアルファ碁を上回る最強AI「アルファ碁ゼロ」を開発したことを明らかにした。AIのプログラムを改善し、従来のアルファ碁と違ってプロ棋士の対戦データ（棋譜）を一切学ばず、自分対自分の対局を繰り返して打ち方を独学する。わずか3日間の学習で従来のアルファ碁に100戦全勝した。研究成果が19日の英科学誌ネイチャーに掲載される。

# アルファ碁に 100戦全勝

## 最強AI誕生「独学3日」

◆従来のアルファ碁とゼロの違い



### 創薬など応用期待

い手を学習した。昨年3月には、世界トップクラスの強豪、韓国の李世石九段に

昨年3月 圧勝。アルファ碁の改良版は今年5月、世界最強と称される中国人棋士、柯潔九

段を3戦全勝で退けた。ディープ社はゼロを開発するにあたり、従来のアルファ碁では別々だったネットワークを統合するなど、自己対局のみで効率的に学べる新技術を導入した。囲碁のルール以外は一切教えず、3日間で自己対局を重ねた結果、ゼロは李九段を倒した当時のアルファ碁を100戦全勝で「蹴」。約40日間の学習後は、改良版にも89勝11敗で圧倒した。

「この技術は、人間の知識の限界に制約されず、従来のアルファ碁より強力」としている。プロ棋士の大橋拓文六段は「ゼロの棋譜は、改良版の棋譜と非常に近いものを感じる。それでもゼロの方が強いということ、人間の知恵が足を引っ張っている可能性がある」と考えられ、悲しさを覚える」と話す。

膨大な選択肢の中から最も有効な手を見いだすAI技術を開発してきた同社は、これまで医療分野での画像解析や電力消費量の最小化などの研究にも取り組んできた。同社の研究チームは、この技術の応用が期待される分野として、創薬に役立つたんばく質の構造解析や新素材の開発、省エネ研究などを挙げている。